

# 一般社団法人高機能玄米協会

## 第7回定時社員総会

平成27年6月17日

14:30 ~ 17:00

於 サンケイプラザ301号室

## 第7回定時社員総会式次第

<司会進行（事務局長 日浦拓哉）>

1. 開会の辞（14:30）
2. 池森会長挨拶
3. 議事

決議事項

- （1）第1号議案 「平成26年度事業報告及び収支決算報告、財務諸表の承認・監査報告の件」
- （2）第2号議案 「平成27年産金のいぶき栽培予定の件」
- （3）第3号議案 「役員改選の件」
- （4）第4号議案 「平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）の件」

----- 休 憩 （15:30～15:45） -----

4. 講演会・記者発表（15:45～17:00）
  - （1）総会報告（15:45～16:10）
  - （2）講演 「次世代機能性米について（16:10～16:40）」  
（株）サタケ 執行役員 技術本部 副本部長 水野英則
  - （3）報道関係 質疑応答（16:45～17:00）
5. 閉会の辞（17:00）
6. 懇親会（17:10～）  
302号室にて実施

## 決議事項 1

### 平成26年度事業報告及び収支決算（財務諸表）の件

#### 1. 戦略的米資源「金のいぶき」の本格活用

##### (1) 戦略骨子

平成26年度の会員総会において、当協会は日本発芽玄米協会から高機能玄米協会へと名称変更した。「金のいぶき」を戦略的米資源と位置づけ、その種子のもつ高機能性と多機能性を活かすことで、水田の有効活用に寄与しながら、ひいては健康長寿社会に貢献していく計画を発表した。健康に資する機能成分を既存の玄米より多く含むこの「金のいぶき」が、米本来の多用途性を存分に活かすことで、消費者の食シーンや嗜好に可能な限り対応しつつ普及を図ろうとスタートした。

大きくは①玄米食専用品種②全粒粉専用品種③米油専用品種としての3つの用途に分けられる。

①玄米食専用品種では、一般主食用としての玄米と、機能性を強化したプレミアムラインとしての発芽玄米の2タイプである。

②全粒粉専用品種では、小麦アレルギー対策として欧米で広まり、最近わが国でも浸透し始めたグルテンフリーの考えに倣い、全粒粉にした金のいぶきを活用し、小麦粉を一切使わないライスブレッドやピッツア生地加工することや、全粒粉の麺やパスタ類、また日経トレンドィー2015年ヒット商品予想にも取り上げられ、食品メーカーが盛んに商品開発を行うライスミルクへの利用が考えられ進められている。

③米油専用品種としては、通常の1.7倍～2倍の原油抽出が実績値においても可能な「金のいぶき」は、油糧種子としても大きな可能性を秘めているものの、胚乳部分の活用や脱脂米糠利用に具体策がようやく見えてきた時点であり、それをもって生産者の不安を排除し、栽培意欲を喚起しながら圃場を広げるまでには相応の時間と需要の根拠を必要とする。

現段階では、①玄米食専用品種としての栽培圃場拡大の中で、篩下や規格に外れた製品の糠を利用する方法が最短と考えられており、③は①の発展に委ねられている。

##### (2) 平成26年産の栽培が完了

玄米食専用品種「金のいぶき」は平成26年産から本格栽培を開始した。最終ユーザーからのオーダーを当協会（㈱金のいぶき）が受注し、収穫に必要な圃場に必要種籾を予め産地へ供給（販売）する完全受注栽培を行っている。金のいぶきは、正会員の㈱ファンケルヘルスサイエンスが100t、賛助会員の

亀田製菓(株)が50t、JAこまち(⇒パルシステム)が50tの予定  
(たいまつ食品(株)は25年産在庫から継続で5t)で栽培を開始し概ねオーダーを確保した。

平成26年産金のいぶき主要集荷量

栽培地	向先	受注量	集荷量
JAおぼこ	ファンケル	100t	100t
JAこまち	パルシステム	50t	45t
宮城県登米市他	亀田製菓	50t	50t

精選歩留含まず

### (3) 品質と収量の安定が課題

平成23年より主にJAこまち管内で試験栽培を開始したが、栽培環境や気候条件によって産地間だけではなく、生産者間でも極端に収量が異なるケースもあった。新品種で小規模栽培だったため、数名の生産者の経験頼みで栽培を行わざるを得なかったことに加えて、宮城県古川農業試験場から供給された種籾の品質が安定していなかった(出穂後不稔が起こりやすいなど)ことが不安定な収量に繋がっていた。

当協会会員企業が本格的に商品化する平成26年産からは栽培圃場や生産者も増えるため、品種開発を行った宮城県古川農業試験場の永野副場長が生育状況を観察し、地元JA主導の下、生産者へ直接生育指導を行いながら丁寧な栽培を行った。

また秋田県からも農業試験場出身で生育に詳しい方2名に参加を要請し、生育に関するデータを蓄積と検証を依頼した。

それにより、栽培量の多いJAおぼこ・JAこまちでは平成27年産から活用可能な金のいぶき専用の栽培ごよみを暫定ではあるが作成することが可能となった(別紙資料参照)

#### ①宮城県

初期生育段階である7月3日に亀田製菓向け10ha(約50t)を栽培する宮城県登米市の圃場を巡回し、生育調査を行った。生育は極めて順調であり、生産者にもその後の生育の注意点を伝え確認を行った。7月16日にも同様の巡回を行った。

#### ②秋田県

原原種の栽培と(株)ファンケル向け20ha(約100t分)を栽培するJAおぼこ農協管内において、初期生育段階である7月4日と出穂後の8月19日の

2回にわたり、生育調査を兼ねた圃場巡回をと栽培研修会を行った。当該調査では、株数、茎数、葉色など生育状況を確認した。その後の追肥の量及び時期等を巡回途中や巡回後の質疑応答時に生産者と確認し合った。

また秋田県湯沢市J Aこまち管内ではパルシステム連合会向けを中心に9 h aの作付を行っており、これらについても同様の調査と栽培研修会を行った。



#### (4) 販売状況

①昨年夏に平成25年産金のいぶきを使用した「金の玄米粥」「金の十六穀粥」を販売開始したたいまつ食品(株)は売上が堅調に推移した結果、今夏金のいぶきを用いた新たな商品ラインナップを追加する。

②亀田製菓(株)は「玄米好きのための玄米(2kg)」を大手高級食品専門チェーンでの店舗限定販売にしており、3月末時点で50tの内10t程度の活用である。

③(株)ファンケルヘルスサイエンスでは、平成26年12月18日に「発芽米 金のいぶき(1kg)」を販売開始したところ好調に推移した結果、3月上旬に一般販売を休止し定期購入者優先の販売体制に入っている。

#### (5) 普及啓蒙状況

「金のいぶき」試食・記者発表会を2014年12月1日(月)東京都港区南青山の自然食レストラン L'artisan (ラルティザン)にて出席媒体31社38名が出席し開催された。品種開発者の宮城県古川農業試験場永野副場長、特命研究員長谷川氏、桑原理事、佐藤(貴)理事が登壇し講演を行った後、料理研究家の小田真規子氏作のレシピを元にした試食や、佐藤(潔)理事が全

粒粉を用い加工食品を披露した。(別添資料参照)

#### (6) ブランド育成

当協会が認証する事業組織(株)金のいぶきは、価値ある米作りは生産者自らが精魂込めて栽培し、その成果物を自らが食することからブランド作りが始まると定義している。

ただ炊飯しておかずと合わせるのではなく、日常生活において様々なバリエーションをもって金のいぶきを取り入れ継続していくことが必要との観点から、その手始めとして平成26年10月23日、JAおばこ主催による「金のいぶき料理研修会」を開催した。

レシピは、既に金のいぶきに関して好評価をしており職員全体で常食しているという、料理研究家の小田真規子さん(スタジオナッツ)に6点のレシピをお願いし、その中から3点を選んだ上で行った。当日は事前にレシピ通りに作る研修を受けたJAおばこ職員が、生産者の婦人に指導しながら作り上げた。試食会場にはJAおばこの藤村組合長以下役員も顔を揃え、生産者も含めて試食を行った。金のいぶき料理研修会は好評価のうちに終了した。



作られた料理

調理風景

## 2. 高機能米油推進委員会

賛助会員の三和油脂が、同じく賛助会員の秋田県湯沢市、JAこまちの協力を得て農商工連携事業計画実行の初年度となった。当協会が平成24年～25年度の2年間秋田県から業務委託を受けて進められた高機能米油推進事業計画が下敷きになっており、秋田県湯沢市、山形県天童市で栽培された平成26年産「金のいぶき」使用の高機能米油の開発に加えて、米油精製後の脱脂糠と乳酸菌を配合した粉末(サプリメントや飲料に使用可能)、胚乳を活用した高級米菓等の加工食品開発が進んでいる。それらの進捗は米油フォーラム in 天童(12月2日)にて発表された。

米油専用品種としての「金のいぶき」の栽培については、秋田県湯沢市で既に3年間テスト栽培に参加している生産者の協力と秋田県雄勝振興局田口嘉浩氏の指導を得ながら、栽培時粒は小さく粳数（未熟粒）を増加させることで、反収あたりの米糠総量を増加させるプランで取り組んだ。

結果平成26年産試験栽培では、想定通り粒数は増えたものの不稔が多く、油糧の増加が認められなかった。以上の結果は、胚乳の登熟を抑えて米糠成分を単独で増加させる栽培方法の困難さを示すものである。

次年度は、葉色を定点観測しながら、低品質多収栽培から登熟を重視した多収穫で良質な米糠量産に務める。

### 3. 日本の食と疾病予防研究会

#### (1) メディケアフーズ展出展

平成27年1月28日～29日に開催された「メディケアフーズ展2015（東京ビッグサイト）」に製品開発を担当するエイティエイト㈱と共同出展した。当該イベントは高齢者食と介護食の専門展示会である。金のいぶきを使った緊急対応食用のパンやお粥、ライスミルクを出展した。

名称：メディケアフーズ展2015

会期：2015年1月28日（水）29日（木）10:00-17:00

会場：東京ビッグサイト西1ホール

来場者数：13,000人（予定）

主催：UBMメディア㈱

後援：農林水産省、東京都

協賛：日本栄養士会他

出展金額：356,400円（内当協会負担178,200円）

医療法人勤務の管理栄養士や栄養士が主たる来場者ではあったが、入院患者や要介護者への食事を熱心に考えながらも、食事にかかる予算は限られており、サンプルを試食しながらも自らに決定権がないことを訴える現場担当者が大半を占めた。医師や医療法人の経営陣が「食」について患者のQOLを高めるもので重要事項であるとの認識が、依然低い状況が浮き彫りになった。

今後は日本の食と疾病予防研究会のメンバーの協力を得て、金のいぶきの業務用お粥のテスト導入を進めることを皮切りに、市場調査も兼ねた価格や利用面での落としどころを探っていく。

#### (2) 秋田県湯沢市における金のいぶきを用いた健康調査

湯沢市が目指している環境と農業と健康が円を描くように連携し合う「健康循環型社会」については、湯沢市健康対策課と農林課により活動が継続されている。

るが、平成26年度は疫学調査の前段階である本格調査を開始するには至っていない。疫学調査には米油を用いる予定であったが、塩分の軽減等明らかに栄養指導で効果の高い手法を取る必要性など、健康を作る食のあり方全体を考える方向性が固まった。そこで桑原理事が教鞭を振るう淑徳大学のゼミ生の研究テーマとリンクさせる中・長期研究テーマ「高機能玄米・金のいぶきが生産者に及ぼす健康推進効果について」を湯沢市で行うことが内定した。

桑原理事は大学教育と湯沢市の健康推進事業が一体化した研究支援を実施したいと考えており、この取組が進むことで若年層の人材交流が活発化するなど副次的効果も期待される。

#### 4. 決算と財務諸表

期間(平成26年4月1日～平成27年3月31日)			単位:円)
科目	収入	支出	備考
前年度繰越金	940,183		
年会費収入	1,730,000		正会員4名 賛助会員17名 内新規入会1名)
その他収入	182,288		
受取利息	122		
小計	2,852,593		
広告宣伝費		48,600	ITテニスリーグ
図書印刷費		13,370	食糧ジャーナル定期購読
業務委託費		500,351	税理士法人コムス(決算) 浅井法務事務所(名義変更)
HP製作費・維持費		646,529	協会HP 日本の食と疾病予防研究会HP
通信費		7,297	
会議費		853,580	会員総会 メディケアフーズ展
交際接待費		108,246	懇親会費
旅費交通費		85,500	外部講師現地派遣にかかる出張旅費他
事務備品費		17,711	
支払会費		100,000	油糧米分科会 全国国立病院管理栄養士協議会
支払手数料		13,176	
租税公課		8,484	源泉徴収他
雑費		11,638	種子許諾使用料
小計		2,414,482	
次期繰越金		438,111	
合計	2,852,593	2,852,593	



## 決議事項 2

### 平成 27 年産金のいぶき栽培予定の件

当協会が昨年打ち出した「美味しく食べる健康な食事市場」は、昨今その主食に胚芽精米を用いて需要を増加させることに成功した事例もあるが、栄養機能性の面から発芽玄米食の需要増に長年取り組んできた当協会としては、炊飯機能性と食味において秀でている玄米専用品種としての「金のいぶき」を最大限活用し市場形成をしていくことが基本である。

発芽玄米としては、プレミアムラインである「発芽米 金のいぶき」を販売する(株)ファンケルヘルスサイエンスの大幅増産要望を筆頭に、通常の玄米食使用でも各会員企業からの引き合いが増加しており、既に品薄状態に陥っている。

平成 28 年産栽培用の種籾 1ha から 7ha に拡大し、需要の高まりに応えられるよう準備を行っている。

		5,450	種籾総量 (kg)					
		3.5	← 1反当たり (kg)					
産地	作付	作付面積 (ha)	種籾必要量 (kg)	出来高 (t)	需要家①	数量	需要家②	数量
宮城県	登米	27.8	972.2	150	金のいぶき	134	たいまつ食品	16
	加美よつば農協	20.6	719.4	111	亀田製菓	100	その他	11
	有)金沢	20.0	700.0	108	亀田製菓	50	金のいぶき	58
	大郷グリーンファ	0.6	20.1	3.1	金のいぶき	3.1		
	耕谷アグリ	1.9	64.8	10	金のいぶき	10		
	蕪栗	0.6	20.1	3.1	大地を守る会	3.1		
	秋田県	おばこ農協	108.6	3802.0	586.6	ファンケル	500	金のいぶき
こまち農協		31.7	1108.3	171	こまち農協	171		
ハーモニーファ		0.6	20.1	3.1	オクモト	3.1		
山形県	三和油脂	5.7	200.9	31	三和油脂	31		
合計		217.9	7628.1	1176.9		1005		172
			-2178.1	560%	前年比			
			種籾残量 ↑		2,000	←追加転用種子 (JAこまち)		
					200	←追加転用種子 (登米)		

### 決議事項 3

#### 役員改選の件

役員任期満了につき定款第4章23条に基づき理事・監事の改選を行う  
戦略的米資源「金のいぶき」の取り扱いについては、生育と普及に関して  
道半ばであることや、今後規模拡大した場合に起こりうる様々な課題、諸  
問題に対処する場合において、あらゆる角度から検討可能な布陣で臨む必要  
がある。それらを鑑みた上で下記理事・監事候補者で決議を諮りたい。

##### <理事候補>

池森賢二（再任） ㈱ファンケルH.D 代表取締役会長CEO  
尾西洋次（再任） ㈱金のいぶき 代表取締役社長  
池森行夫（再任） ㈱ファンケル発芽玄米 代表取締役社長  
桑原節子（再任） 淑徳大学 看護栄養学部栄養学科 教授  
佐藤 潔（再任） ㈱名古屋食糧 参事  
佐藤貴之（再任） ㈱高清水食糧 常務取締役  
田多井毅（再任） ㈱ファンケルヘルスサイエンス 代表取締役社長

##### <監事候補>

樋口元剛（再任） たいまつ食品㈱ 代表取締役社長

### 決議事項 4

#### 平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）の件

##### 1. 増産する(前年比560%)金のいぶきの栽培圃場確保に伴う安定栽培の実現

◆平成27年産金のいぶきは、平成26年産の好評を受けて大きく栽培圃場を増加させ、それに伴い初めて栽培に携わる生産者も増加している。

そのため、栽培方法や稲の各成長段階における見極め、また使用肥料についても各組織（JA単位もしくは農業生産法人単位）が体系的な手法により品質の安定化を図る必要がある。

テスト栽培を経て、初めて本格的な栽培を行った平成26年産の経験を活かし、各組織が昨年作成した栽培概要を用いた手順の徹底と、実地研修会などにより時機を得た栽培方法を磨きあげて行く

またさらに平成28年産の金のいぶきに関して需要が高まることが予想されるため、栽培圃場の確保については栽培することでのメリットをより明確にす

ることによる、生産者への説明会の開催などを通常より早い段階(年末から)で始めることを視野に入れている。

## 2. 金のいぶき栽培他規格基準の制定

◆検査規格・肥料・食味・機能性を標準化することでブランド化を促進させる。食に求める健康志向による需要が高まり、当種子に関しては話題が先行している今、当協会会員以外が非正規ルートで当該種子を入手し栽培（販売）することは想定すべき状況である。金のいぶきの正しい商品価値提供を行っていきつつ、価格の乱高下を回避するには、正規ルートで流通する金のいぶきに関しての規格基準の設定と、その認定証明書の発行が必要と考えている。

①農産物検査（通常）+ $\alpha$ ⇒②加工検査（栽培履歴・肥料・使用農薬）  
⇒③メーカー検査（胚芽残存率・GABA・VE等の栄養機能）に関してのガイドラインを設定し、立場が異なる使用者の客観データが揃った時点で、当協会が認定マークを発行する。当協会会員企業で消費者への販売を行う企業は、可能な限りにおいて、認定証の発行を受けるよう促していく。  
今秋からの運用を考えている。

## 3. 「はじめての玄米食（仮名）」出版

◆東日本大震災以前より東北胚 202 号に注目し、金のいぶきを育成して来た当協会の動きと事実関係を中心に編纂する。古来日本人が主食として来た玄米の歴史に触れながら、池森会長を始めとする関係者のインタビューも盛り込み、いずれ金のいぶきが広がりを見せた時に本物がどこにあるかを証拠として残す。行政機関や販売者に配布し伝導ツールとして活用することを目的としている。

## 4. 金のいぶきの多用途化の推進

◆玄米粉（パン）、玄米油（自然圧搾油）、ライスミルクなどの多用途化に向けて、当協会会員が動き始めている。また業務用需要の開拓先として、病院給食・学校給食へのアプローチも進めて行く。

期間(平成27年4月1日～平成28年3月31日)			単位:円)
科目	収入	支出	備考
前年度繰越金	438,111		
年会費収入	1,860,000		正会員4名 賛助会員20名 内新規入会3名)
その他収入			
受取利息			
小計	2,298,111		
広告宣伝費		150,000	業界誌出稿
図書印刷費		13,370	食糧ジャーナル定期購読
業務委託費		300,000	会計監査他
HP製作費・維持費		500,000	協会HP 日本の食と疾病予防研究会HP
通信費		7,000	
会議費		500,000	会員総会他
交際接待費		100,000	
旅費交通費		100,000	外部講師現地派遣
事務備品費		10,000	
支払会費		100,000	油糧米分科会 全国国立病院管理栄養士協議会
支払手数料		10,000	
租税公課			源泉徴収他
雑費		50,000	種子許諾使用料
小計		1,840,370	
次期繰越金		457,741	
合計	2,298,111	2,298,111	

# 一般社団法人高機能玄米協会会員名簿

平成 27 年 6 月 17 日現在

正会員名 4名	賛助会員名 19名
株式会社名古屋食糧 尾西食品株式会社 たいまつ食品株式会社 株式会社ファンケルヘルスサイエンス	秋田おばこ農業協同組合 秋田県農林水産部 秋田県湯沢市 農業生産法人株式会社あすファーム 株式会社岡安商店 株式会社オクモト 加戸米販株式会社 加美よつば農業協同組合 亀田製菓株式会社 有限会社吉備王国 幸南食糧株式会社 こまち農業協同組合 株式会社サタケ 三和油脂株式会社 株式会社神明 H.D 株式会社高清水食糧 築野食品工業株式会社 日の本穀粉株式会社 ボーソー油脂株式会社
学術会員名 2名	助成先・共同研究先
奥西智哉(食品総合研究所) 永野邦明(宮城県古川農業試験場)	食品総合研究所 宮城県古川農業試験場 日本の食と疾病予防研究会